２０１７年４月　第４１号（診療科紹介号）

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病 院 の 理 念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

困難な時代と職員のモチベーションの向上と

病院事業管理者　土肥（どひ）　修司（しゅうじ）

陽光豊かな清々しい日々となりました。市立室蘭総合病院の2016年度は寒暖の激しい異常なこの冬のような激流に翻弄されましたが、予想された「資金不足の発生」も回避できました。そしてこの春、消化器内科、外科、泌尿器科、放射線科の各1名の増員のほか新進気鋭の医師15名、看護師を初め多くの医療従事者が加わり、新たな希望をもち飛躍を期待できる幕開けとなりました。

この4月から、地域の皆様の直接影響する医療改革がスタートします。一つは、15年の春に施行された改正医療法で、団塊世代が75歳以上となる2025年に向けて、各都道府県が目指すべき『地域医療計画』も策定され、昨年末に公示された北海道医療計画（改定版）を実現するために、西胆振の医療機関では現実的な協議に入ります。二つは、この「地域医療構想」の実現を後押しすることを目的として、地域医療連携推進法人制度がスタートします。医療と介護との連携強化が必須の時代、地域に点在している医療機関や介護施設などを、ICT（情報伝達技術）を駆使して、点の整備ではなく地域を面として整備する、高齢者の利便性に配慮した医療と介護を提供し、住みよい高齢社会を実現していこうという計画です。

当院では一昨年の「地域包括ケア病棟」に続き「医療連携・患者支援推進センター」を立ち上げたのはその先取りでした。病気や怪我からの回復に時間を要する高齢の市民に少しゆっくりとした入院生活をおくって頂き、そして住み慣れた街、室蘭で満足感の高い医療と介護の連携のもとに自立し、ご活躍頂きたいためです。

世界のどの国も経験したことのない超高齢・人口減少時代、地域医療には難問が山積しております。全職員がこの時代を生き抜くという気概をもち、自ら潜在的な能力を引き出し難問に挑戦いたします。市民の皆様が安心して医療を受けて頂けるよう、地域医療を守り通す努力を継続してまいりますので、ご理解とご支援とをお願い申し上げます。

診療科の紹介

院　長　金戸　宏行（かねと　ひろゆき）
部長［胃腸科］　清水　晴夫（しみず　はるお）
部長（血液科）［内科部長］　佐藤　修司（さとう　しゅうじ）
科　長　伊早坂　舞（いそさか　まい）

医　長　一色　裕之（いっしき　ひろゆき）
医　長　那須野　央（なすの　ひろし）
医　長　榮浪　洋介（えいなみ　ようすけ）
医　員　大和田紗恵（おおわだ　さえ）

消化器内科

胃・腸疾患、肝・胆・膵疾患、さらに血液疾患などを担当しています。日本消化器病、消化器内視鏡学会の認定施設に指定され、それぞれの専門医を中心に診療にあたっています。充実した内視鏡機器を備え、内視鏡技師を中心とした内視鏡室専属スタッフのサポートにより、最新の内視鏡検査・治療を行っています。肝・胆・膵疾患の入院治療はチーム制を導入し複数の医療従事者による診療を行っています。また外科的な治療が必要と判断される場合は、術前検査を行って外科とのカンファレンスを行い、手術を行った症例については臨床検査科（病理医）を交えて検討するなどの連携を図っています。血液悪性腫瘍に対しては無菌治療室を利用し、自家末梢血幹細胞移植治療にも取り組んでいます。

循環器内科

部　長　福岡　将匡（ふくおか　まさただ）
嘱託医　東海林哲郎（しょうじ　てつろう）

診療領域は、狭心症、心筋梗塞、心筋症、心不全、不整脈、肺塞栓症、深部静脈血栓症、閉塞性動脈硬化症などの循環器疾患の診療です。また高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、痛風、高尿酸血症などの生活習慣病の改善指導を行っています。さらに高齢化や高血圧や糖尿病が長く続いた結果生じることが多い慢性腎臓病（腎不全）等に対し、急性期の治療から日常生活で気をつけるべき食事療法など生活習慣の改善指導まで幅広く行っています。

検査としては、心電図検査、運動負荷心電図検査、２４時間ホルター心電図検査、心エコー検査、脈波検査、心臓核医学検査などを実施しています。

治療としては、狭心症、心筋梗塞、不整脈の治療に対し、近隣の病院と連携して治療を行っています。また深部静脈血栓症、肺塞栓症に対し、血栓溶解療法、下大静脈フィルター留置術を実施しています。

腎臓内科

部　長〔循環器内科部長〕　福岡　将匡（ふくおか　まさただ）
診療援助医　大谷　美穂（おおたに　みほ）

尿や血液などで腎障害が存在し、腎機能低下が慢性的に続く状態を“慢性腎臓病”といいます。日本腎臓学会の調査によるとわが国の慢性腎臓病患者は１,３３０万人と膨大であり一般的な病気となっています。高血圧や浮腫といった症状が見られることがありますが、特に自覚症状がなく健康診断の尿所見異常で気付く場合もあり、慢性腎臓病を自覚している人は少ないと思われます。

慢性腎臓病が注目を集めているのは、慢性腎臓病が末期腎不全の危険因子であること、心血管イベント（心筋梗塞、狭心症など）の危険因子であることです。末期腎不全になると人工透析が必要になるため、その前段階である慢性腎臓病の段階で適切に治療を行うことが大切です。そして心血管イベントの抑制をする上でも大切となります。

慢性腎臓病（ＣＫＤ）を予防し進行を遅らせるためには、医師のみならず、患者さんご自身やご家族にも治療に参加していただき、みんなで一緒に「腎臓を守る」ことが重要になります。そのお手伝いやサポートを行っていくことを目的として、当院では腎臓内科外来を設け、専門的な治療を行うと共に院内の様々な職種が集まって連携をとり、適切な食事療法や生活習慣の改善、薬物療法などを提供していきたいと思っております。

主任医長　佐賀　亮介（さが　りょうすけ）
医　長　田中　優子（たなか　ゆうこ）
医　員　北村智香子（きたむらちかこ）

呼吸器内科

肺炎、間質性肺炎（肺線維症）、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、じん肺、呼吸不全、肺腫瘍、肺癌、肺結核などの病気の診断・治療を担当しています。健康診断などで胸部X線写真に異常を発見された方の精査も行なっています。なるべく短期間で苦痛の少ない検査によって治療方針を決定するよう心掛けております。検査や治療は可能な限り外来で進めてまいります。

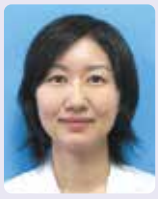
また最新の超音波気管支内視鏡や局所麻酔下に行なう胸腔鏡などを導入し、ハイレベルな診療を行えるよう、スタッフ一同、日々努力しております。

糖尿病内科

糖尿病専門医・指導医として、以下のことに留意し診療を行っています。

○食事・運動療法を基本とする。
○個々の患者さんの特徴・病状に合った適切な経口薬・注射薬・インスリンを処方する。
○厳格な血糖コントロールを目指すと共に低血糖を可能なかぎり回避する。
○糖尿病の合併症である細小血管症（網膜症・腎症・神経症）や大血管症（心筋梗塞・脳卒中・末梢動脈疾患）の発症・進行の予防に努める。
○血管症の他、糖尿病で頻度の多い感染症・癌・骨折の診断・治療の為に他科専門医との連携に努める。
○患者さんに糖尿病という病気への理解・関心を深めてもらう（糖尿病教室開催中）。

部　長
宮崎　義則（みやざき　よしのり）



部　長［消化器内科部長（血液科）］　佐藤　修司（さとう　しゅうじ）
科　長［外科兼任］　宇野　智子（うの　さとこ）

内　科

当科では、感冒（いわゆる「かぜ」）、発熱、健診で異常を指摘された方、何科を受診すればよいかわからない方、健康相談を希望される方、健康問題でお悩みの方などを対象とします。どうぞお気軽にご相談ください。必要な診療科へ紹介いたします。

また、当科では人間ドックも行っております。診察や検査結果の判定は消化器内科、循環器内科、呼吸器内科など各科の担当医が行います。全科の結果をまとめた後にご来院いただいて当科医師から結果報告を行わせていただきます。

心臓血管外科

大動脈瘤、心臓弁膜症、冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などの心臓血管系疾患を扱っています。札幌医科大学心臓血管外科の派遣医師が担当します。月二回、第一・第三火曜日（午前）外来のみの診療となります。外科治療が必要な場合、札幌医大病院など適切な医療機関を紹介いたします。

呼吸器外科

副院長
髙橋　典之

主たる診療内容は胸部に関する外科治療一般です。全世界的に増加傾向にある肺癌、若年者から高齢者に見られる自然気胸、切除以外に確定診断が難しい縦隔腫瘍、肺結核や非結核性抗酸菌症 (NTM) など感染症の外科切除、気管・気管支腫瘍、および胸部外傷など診療内容は多彩です。

お気軽にご受診ください。

外科･消化器外科

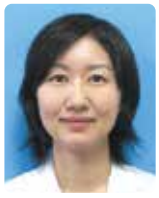
部長(医局長兼任)
佐々木賢一

副部長
齋藤　慶太

科　長
小川　宰司

医　長
中野正一郎

医　員
渡久山　晃



科長[内科兼任]
宇野　智子

食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆管・胆嚢、膵臓、ヘルニア(脱腸)など消化器全般と、乳腺・甲状腺を担当し、年間500例以上の手術を行っています。外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会、乳癌学会など多くの学会から認定を受けています。からだの負担の少ない術式として、腹腔鏡下手術を積極的に取り入れ、胃癌、大腸癌、胆石、ヘルニアを中心に、年間200例以上の腹腔鏡下手術を、最新鋭のハイビジョンシステムを導入し行っています。

乳癌手術では、できる限り乳房を温存し、また、キズを目立たない場所にするなど美容に配慮した術式も取り入れています。この3年間（2014-2016年）の乳房温存率は76%（初発乳癌96例中73例）です。トモシンセシス可能な最新鋭デジタルマンモグラフィー装置を2014年に道内で2番目に導入し、乳癌の早期発見に効果を上げています。女性技師が検査をし、女性医師（宇野医師）が診察しますので、安心して当院での乳癌検診をぜひお受け下さい。

また、月に1回、札幌医大前教授と講師による乳腺専門医外来も開設していますので、ぜひご利用下さい。

内痔核(イボ痔)治療には、「切らずに治す」ALTA療法(ジオン注射)を一早く取り入れ、321例の実績（2017年4月1日現在）があります。従来の手術と違い、術後の痛みがほとんどないため、一泊入院手術も可能です。ぜひ相談にいらして下さい。

整形外科

副院長
石川　一郎

科　長
藤田　安詞

医　長
千葉　充将

医　長
冨居　りら

医　員
森　勇太

診療援助医
〔スポーツ整形外科専門医〕
中野　和彦

診療援助医
〔スポーツ整形外科専門医〕
神谷　智昭

診療援助医
〔膝関節専門医(人工関節)〕
亀田　和利

専門領域 ： 脊椎・肩関節・膝関節・およびスポーツ専門の診療に力を入れております。その他　股関節・足関節・足部・肘関節・手の外科の診療を行っており、リウマチ・小児の整形外科治療も積極的に行っています。

外傷 ： 高エネルギー外傷を含む外傷一般に力を入れており、ほとんどすべての外傷に対して受け入れ・手術を含めた治療を行っています。”絶対断らない”を信念に頑張っています。

鏡視下手術：肩・肘・手・(股)・膝・足の各関節の手術・治療を行っています。

人工関節:肩(リバースショルダーを含む)、肘、手指、股、膝に対して精力的に行っております。

スポーツ専門外来：元コンサドーレ札幌チームドクターの中野先生による月1度の外来に加え、札幌医科大学の神谷先生が月に1度、診療に来てくれます。月に2回のスポーツ専門外来開催となり、より充実したものとなることが期待されます。

脳神経外科

部　長　大山　浩史（おおやま　ひろし）
部長［脊椎・脊髄担当］　小浜　郁秀（こはま　いくひで）

脳神経外科では、脳卒中診療（脳梗塞超急性期治療であるｔ－ＰＡ静注療法に２４時間体制で対応）をはじめ、交通事故・不慮の事故などによる頭部外傷や脊髄損傷、さらには脊椎・脊髄疾患（頸椎症・頸椎椎間板ヘルニア・頸椎後縦靱帯骨化症・腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症、脊髄脊椎腫瘍など）の診断治療、その他の末梢神経の外科に積極的に取り組んでいます。ＭＲＩ（磁気共鳴断層装置）、ＣＴ（コンピューター断層撮影装置）、ＤＳＡ（血管Ｘ線撮影装置）など、最新の医療機器により脳、脊髄の診断を行い、特に脳卒中の予防に力を入れています。近年、治療可能な認知症といわれる特発性正常圧水頭症に対しても、積極的に鑑別診断、治療を行っています。「手足のしびれや痛み」はよく感じる症状ですが、その原因として、脳疾患、脊椎脊髄疾患や末梢神経疾患があります。すなわち、神経系全体にわたる原因が考えられます。このため脳神経外科では、神経系全体（脳から手足の先端まで）を診察、検査してその原因を診断、治療する目的で『脳神経外科－しびれ・痛み外来』を設けました。手足のしびれ、痛みでお悩みの方は、一度脳神経外科を受診されることをおすすめします。

産婦人科

嘱託医　荻野　元子（おぎの　もとこ）
嘱託医　太田　雄子（おおた　ゆうこ）

現在産婦人科では婦人科の外来診療のみを行っています。

子宮筋腫や卵巣のう腫などの経過観察、子宮がん検診、妊娠の判断、月経不順や更年期障害の治療、性感染症など、一般的な外来診療は従来通りに行っています。生理の異常、おりものの異常、不正出血、下腹部痛などの症状がなくても婦人科の病気がかくれていることがあります。子宮頸がんはがん検診を受けていただくことで早期発見・早期治療できる病気です。初期のがんであれば子宮を温存し妊娠出産することも可能です。２０歳以上の方は特に症状がなくても２年に１回は子宮がん検診を受診されることをお勧めします。また、トマト外来では生理トラブルや避妊の相談も承っています。

分娩を希望される妊婦さんや入院・手術が必要な患者さんについては日鋼記念病院や製鉄記念室蘭病院等と提携しておりますので、責任を持ってご紹介させていただきます。

診療日は水曜と木曜の午前中です。前日までに電話などでご予約ください。

小児科

製鉄記念室蘭病院の医師による出張診療です。
毎月第３金曜日午後の診療で予約のみとなります。

耳鼻いんこう科

札幌医科大学付属病院の医師による出張診療です。
毎週月・水・木曜日の診療で予約のみとなります。

皮膚科

札幌医科大学附属病院の医師による出張診療です。
毎週金曜日午後の診療で予約のみとなります。

嘱託医
大塚千久美（おおつか　ちぐみ）

神経内科

神経内科は、脳や脊髄・神経・筋肉に原因のある病気を診断し治療する内科です。神経内科の病気では、頭痛・めまい・物忘れ・しびれ・手足のふるえ・歩きにくい・話しにくい・動作が遅くなる、など様々な症状が出現します。これらの症状が、急に出現する病気（脳梗塞・脳出血）、徐々に進行する病気（認知症・パーキンソン病など）、良くなったり悪くなったりする病気（多発性硬化症・筋無力症など）、繰り返し起きる病気（片頭痛など）があります。当科では、いつから、どんな症状が、どのように変化してきたか、患者さんからじっくりお話しをお聞きして、神経学的診察と検査から病気を診断します。

少しでも気になる症状がありましたら、ぜひ受診してみてください。診療は、毎週木曜午後になります。

泌尿器科

腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿道炎、性感染症、腎・尿管・膀胱の結石、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌、副腎疾患、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁、男性不妊症、勃起不全、男性更年期障害などの疾患を主に扱っています。尿が出づらい、尿がもれる、尿をする時に痛みがある、尿が近いなどの症状がありましたら受診してください。

部　長
加藤　隆一（かとう　りゅういち）

医　長
柴森　康介（しばもり　こうすけ）

医　員
小笠原卓音（おがさわら　たくと）

眼　科

白内障や緑内障、網膜硝子体疾患をはじめとする眼科疾患全般について診療しています。また、札幌医科大学付属病院との迅速な診療連携を行っており眼科専門外来の医師（教授、准教授）による網膜硝子体、緑内障、神経眼科領域疾患の専門特殊外来も設けています。

主任医長
伊藤　格（いとう　かく）

医　長
池田　毅（いけだ　たけし）

嘱託医
伊藤　洋樹（いとう　ひろき）

嘱託医
北潟谷史織（きたがた　やしおり）

放射線科

放射線科には、放射線治療と画像診断を担当する医師が１名ずついます。

２０１５年６月１５日に新しい放射線治療装置「リニアック」が稼働し、高精度でより患者さんにやさしい放射線治療ができるようになりました。

画像診断には、ＣＴ、ＭＲＩ、核医学検査などの読影を中心に、各科の画像コンサルトにも応じています。

部　長
志藤　光男（しどう　みつお）

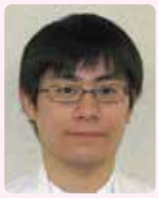
画像診断担当部長
吉田　悟（よしだ　さとる）

医　員
喜友名由記（きゅうな　よしふさ）

精神科

精神科の外来は午前中３診体制で、統合失調症やうつ病、不安障害、認知症などの精神疾患全般に対する診療を行っています。一般病棟へ入院中に、精神的な不調を来した患者さんの診察も行います。精神科の入院はベッド数が開放５７、閉鎖５８（合計１１５）床で、特に総合病院の精神科として、精神科救急医療や身体合併症をもつ精神疾患患者さんの治療に積極的に取り組んでいます。また一方で、看護師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士などとチームを組んで、デイケア・作業療法・訪問看護などの精神科リハビリテーションを積極的に展開し、患者さんの社会復帰の促進にも力を入れています。

副部長
三上　敦大（みかみ　のぶひろ）



医　長
三宅　高文（みやけ　たかふみ）

医　長
奥村　真佑（おくむら　まゆ）

医　員
北村　一紘（きたむら　かずひろ）

麻酔科（ペインクリニック）外来

患者さんの痛みや・しびれの症状をペインクリニック（麻酔科）、脳神経外科、神経内科の医師グループによって総合的に診察し、それぞれの専門医が治療にあたるという全国でもまれなチーム医療を実践する痛み・しびれの総合外来です。治療はそれぞれの分野の専門医・学会認定医が行います。

嘱託医
今　久子（こん　ひさこ）

麻酔科

「安全な麻酔」をモットーに年間２,０００例以上の麻酔管理を手術室で行っています。さらに集中治療室（ＩＣＵ）や救急診察室では重症患者さんの治療に参加しているほか、地域の消防と協力しながら２４時間体制でドクターカーを運用しています。

部　長
下舘　勇樹

集中治療室担当部長
西川　幸喜

副部長
渋川　圭介

医　長
池島　雄太

臨床検査科･病理診断科

血液･尿･喀痰･体腔液･組織などを検査する検体検査部門と、心電図･脳波・超音波検査などを行う生体検査部門があります。また、外来採血業務の一部も担当しています。

緊急検査、診療前検査、時間外緊急検査にも対応し、人間ドックや検診、そして生活習慣病の診断も支えます。また安全な手術を行うための重要な役割も担っています。

病気の原因をさぐる事、治療の方向を決める事、経過観察などの一助となり、質の高い検査結果を導き出す為、専門性の高い知識を得る様努力しています。

副院長
今　信一郎

科　長
小西　康宏

病理専門医が常勤し、病理組織診断や手術中迅速病理診断、更には細胞学的診断にも対応しています。当科には臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士が所属しており、院内感染対策や栄養サポートなどのチームの一員としても活動しています。

リハビリテーション科

リハビリテーションは、理学療法士（ＰＴ）２０名・作業療法士（ＯＴ）身体１１名・精神３名・言語聴覚士（ＳＴ）５名と胆振地区としては充実したスタッフ数で、患者さんにリハビリテーションを提供しています。

ＰＴは起きる・座る・歩くなどの基本動作訓練を主に行います。ＯＴは食事動作・更衣動作・トイレ動作など、日常生活動作訓練を主に行います。ＳＴは摂食・嚥下訓練や失語症などの患者さんに対して訓練を行います。

私たちは医師・看護師・ソーシャルワーカーなどの他職種とも連携を図り、患者さんの状態に合わせてチームとして患者さんの社会復帰に向けたサポートを提供していきます。

合い言葉は、笑顔と元気！

副院長
石川　一郎

市立室蘭みなと診療所

みなと診療所は平成２３年に室蘭市立の診療所として開院しました。

ＣＴ装置を備え総合的に内科診療を行っており、必要に応じて近隣の医療機関での検査、各診療科への診察を依頼し連携をはかっています。

一般健診、企業健診、船員健診、予防接種なども行っており、スタッフ一同地域の皆様の健康管理にも取り組んでいます。

主に進学・就職・旅行等に必要な一般健康診断と胃がん検診、大腸がん検診（クーポン券利用を含む）、肝炎ウイルス検診（クーポン券利用を含む）、肺がん検診、前立線がん検診、特定健康診査、国保短期人間ドックについては、市立室蘭総合病院に代わり受付、実施していますので、お気軽にお問い合わせください。

診療所長
佐久間司郎

診療時間

月～金曜日　9:00～11:30
13:00～16:00

休診日　土曜日・日曜日・祝祭日

〒051-0022
室蘭市海岸町1-103
TEL 0143-23-3710

売店がファミリーマートになりました。

現在は、当院２階の仮店舗で営業中です。

営業時間：6時00分～21時30分（年中無休）

お弁当類、お菓子などはもちろん、ファミマカフェ、コピー機、ＡＴＭ、マルチメディア端末など一般のコンビニサービスに加え、入院患者様向けの商品も取り扱います。
ぜひご利用ください。

入院中のテレビ・冷蔵庫の使用料が安くなりました。

平成 29 年4月から、入院中のテレビと冷蔵庫の使用料金が改定となり、ご利用しやすい料金となりました。

テレビ：1時間 25円　　冷蔵庫：1日 75円

休日における乳がん検診のお知らせ

実施日：平成 29 年 10 月 22 日㈰　　受診人数枠：30 人（完全予約制）
料金：全額自費の方は 5,000 円（税込）
年齢などで無料クーポンや助成制度が利用可能です。
（女性技師が対応いたします）
※ジャパン・マンモグラフィー・サンデー（J. M. S プログラム）に登録予定。

患者・家族の皆様の権利とお願い

医療は、患者の皆様と医療従事者との相互の信頼と協力とによって実践されます。　両者は、単なる契約関係やパターナリズム（親権主義）にあるのではなく，お互いの信頼感に支えられている「良いパートナーの関係」にあることが最も望ましいと考えております。　この考えのもとに市立室蘭総合病院は、患者の皆様の権利と意思とを尊重して、患者・家族の皆様も一緒に治療に参加できるような最善の医療の提供に努めております。

患者の皆様の権利と責務

皆様の権利

1. ご自身にとっての最善の医療を受けることができます。
2. ご自身の病気の診断・病状・治療方針などについて、分かりやすい言葉や方法での納得できる説明と的確な情報を受けることができます。
3. ご自身（あるいは家族）の意思で治療方法が選択し決定できますし、また他の病院の意見を求めることも、臨床研究中の新しい治療に関する情報の提供を受け、これに参加することもできます。
4. ご自身のプライバシーが守られ、診療明細書の提示や自身の診療記録の開示を求めることも、また知りたくない情報を拒否することもできます。

皆様の責務

5. ご自身の人格・人生観・価値観・宗教観・趣味趣向などは尊重されますが、診療・治療上の必要な指示や助言はお守りください。
6. 通院・入院中は院内規則を守り、迷惑行為を慎んでください。
7. 受けた医療に対しての医療費（自己負担分）は必ずお支払ください。（責務を守って頂けない場合は、当院での医療提供が継続できないこともあります。）

市立室蘭総合病院　広報委員会

〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/